

## JAL 愛媛争議団を支える会

## ニュース



勝利解決の日まで  
たたかう

発行：JAL 不当解雇とたたかう愛媛争議団を支える会  
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内  
松山市三番町8-10-2



## 私も 応援します

## 団結・抵抗・統一

えひめユニオン書記長  
栗林 周次

えひめユニオンは今年結成して25年を迎えます。当時結成に消極的だった私が書記長を担っているのだから不思議なものです。

右傾化した既存労組にどっぷり浸かった運動に抵抗しながら、一方で未組織労働者の受け皿となるユニオン立ち上げにかかわる事への不安と責任の重さに躊躇したというのが本音です。結成の決断は正しかったのか。

もちろん正しい運動であることは現在が証明しています。非正規労働者の増大に伴い地域ユニオンの必要性は瞬間に全国に広がりました。

一人でも入れる、非正規労働者の駆け込み寺のキャッチフレーズは正に労働者の実態を象徴していました。

旧態依然の弱小组合と揶揄されながらもまもなく交渉件数(企業)は100件、裁判闘争は20件、もはや我々の運動を「弱小」とは言わせません。

少数であっても団結し資本に抵抗し共闘して統一することで運動は前進すると確信しています。

昨年、コミュニティユニオン中四国ネット定期大会を愛媛で開催し、JAL 闘争団の林さんより「JAL 不当解雇撤回闘争」をテーマに講演をいただきました。モノ言う労働者の排除と労働組合の弱体化を狙ったものであることを共通認識に共闘支援することを確認しています。

団結・抵抗・統一のスローガンの下、これからも共に頑張りましょう。

そして、また、闘いへ！

JAL 不当解雇撤回争議団(JHU)

松山市在住 林 恵美

不当解雇から15年目の春。JALという労務優先企業は、現場第一の真つ当な航空運送業に生まれ変われるのだろうか？

昨年は、都労委での斡旋解決を蔑ろにし不調に終わらせたJAL側の争議専任部長の役員は、のらりくらりと解決を引き延ばすことのようにだ。「お金で買った」如くの不当判決だ

経営破綻の責任と我慢を押し付けられ解雇された労働者を救う仕組みがない。しかし、破綻させた経営陣は誰一人責任を取らないという理不尽さを到底受け入れられずには行かない。昨年12月10日に日本被団協がノーベル平和賞を受賞した。県庁前で毎週金曜日に反原発行動を行っている仲間が(JAL争議の支援者であり人の生先輩でもある)そのお一

人でオスロの授賞式に参加された。長年の不屈の活動に最大の敬意を払い心から労いた。そのMさんは、「原爆と原発は双子の兄弟。どちらも一刻も早く無くさなければならぬ」といつも訴えておられる。お、日本政府が原発を廃止しないのは核武装したいからだ



2024.10.26 コミュニティ・ユニオン中四国定期大会



2024.12.18 堀之内公園定期宣伝 ↑



2024.12.20 JAL 本社包囲行動 ↑→



オスロの授賞式でスピーチを  
 された田中熙巳さんは、原稿  
 になかった「日本政府は原爆  
 で亡くなった人たちに償いを  
 していない」ことを二度繰り  
 返され、日本に蔓延する「受  
 忍論」を批判した。「戦争とい  
 う非常事態で皆が被害を受け  
 たのだから我慢しなければな  
 らない。皆耐えているのに声

をあげるのとはわがままだ」と  
 いう感情論は、為政者にとつ  
 ては自分達の責任から目をそ  
 らせる、実に都合のよい理屈  
 だ。

経営破綻させた JAL 経営陣  
 が、自分達の責任を棚に上げ、  
 不当解雇は認められないと声  
 を出し行動している被解雇者  
 だけを特別扱いするわけにい  
 かないと主張している詭弁と  
 同じだ。被団協の田中さんは  
 続ける、「国家に戦争責任をき  
 ちんと取らせることは、未来  
 で同じことを起こさせない重  
 要な防波堤になる。」

国が市民国民に押し付ける  
 「受忍論」と、戦後被団協が  
 ずっと続けて来た懲罰的賠償  
 を求める運動は、JAL 争議と  
 共通している。「受忍」するこ  
 とでは、平和は守れない。不  
 当解雇もなくならない。打ち  
 破る闘いを広げなくては！  
 今年こそ！！